

熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様

研究分野: 成人看護学、臨床看護学

キーワード: 肝疾患、外来、熟練看護師、療養支援

貢献できるSDGsの区分:



看護栄養学部 看護学科 教授 高比良 祥子

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/sachiko/>

研究概要

【方法】

参加者は、肝疾患の専門治療を行う施設の看護責任者から推薦を受けた看護師経験10年以上かつ肝疾患外来の看護経験3年以上の看護師とした。調査期間は2017年8月～2019年6月であった。半構造化面接法によりデータを収集し、質的統合法(KJ法)を用いて分析した。分析の信用性を確保するため、質的統合法(KJ法)の指導資格をもつ共著者と共に分析を行った。本研究は、研究者の所属施設の研究倫理委員会の承認を得た。参加者に目的、方法、参加・中断・撤回の自由、個人情報の保護等を説明し同意を得た。

【結果】

参加者は5県8施設の看護師8名、看護師経験年数は10～30年(平均21.8年)、肝疾患外来経験年数は3～7年(平均4.5年)であった。総合分析はラベル123枚を用い、8段階のグループ編成を経て、7つの最終ラベルの関係性に基づいて空間配置した。結果、熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援は【外来支援の戦略: 介入の焦点化と協力体制づくり】を前提条件として、【関係の形成: 安心できる丁寧な関わりにより患者を根底から支える】ことや、肝疾患の【悪化の予防: リスクを予測した受診勧奨と集中支援】、さらには【治療意欲の支持: 重荷を引き受け患者本来の力を引き出す】ことを行っていた。

また【肝炎治療の進歩: 副作用減少に伴うケア機会の減少】と【肝硬変の行く末: 肝硬変終末期を急性期病院で対応せざるを得ない現状】は、肝疾患の治療や施策に影響を受ける療養支援のあり様として通底していた。【社会と向き合う力の獲得: 幅広い相談に対処できるよう研鑽】は、すべての実践に影響を及ぼしていた。【考察】肝疾患患者への療養支援のあり様の特徴が明らかになった。肝疾患外来看護は、社会と向き合う力が問われることが示唆された。

産学連携の可能性(アピールポイント)

肝疾患外来, 消化器科外来に所属する看護師への教育支援

外部との連携実績等

科研費研究[若手研究 19K19608]による助成

関連情報

高比良祥子, 小林裕美(2021) 熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様, 日本看護科学会誌, 41, 269-278. DOI: 10.5630/jans.41.269